



平成 27 年 6 月 8 日

会長の交代について

一般社団法人日本物流団体連合会の次期会長に、日本郵船株式会社代表取締役会長で、6月17日付で次期（一社）日本船主協会会長就任予定の工藤泰三（くどうやすみ）氏が就任することになりましたのでご案内申し上げます。

本年6月23日開催予定の平成27年度定時総会終了時に就任する予定です。



川合正矩物流連会長



次期会長に就任予定の工藤泰三日本船主協会会長

会長交代に関する 川合正矩会長談話

平成25年6月に日本物流団体連合会会長に就任し、早くも2年が経過しようとしていますが、この間、物流への理解を高めるために、会員各社と「物流業界インターンシップ」や「物流業界研究セミナー」を実施し、多くの学生を集めたこと、社会インフラとしての物流の使命を意識して、山間過疎地の輸送サービスの維持・確保、BCPの普及、荷役の効率化など労働力問題への対応、モーダルシフトの新たな表彰制度の制定などに取り組んだこと、さらには物流事業者の海外展開を促進するために、官民連携で課題に取り組む活動を積極的に展開することなどを進めてまいりました。

このような活動を積極的に進めることができたのも、会員の皆様や国土交通省その他の関係機関の皆様のご支援のお蔭であり、厚く御礼申し上げます。

グローバル化が進む一方少子高齢化が進む我が国において、物流の機能は益々重要であります。その中で物流業界の課題は重く、多様であり、それらへの対応の活動はまだ道半ばであります。工藤泰三新会長にそれらを託したいと思います。新体制に移行する当連合会に対し、引き続き、温かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

会長就任に関する 工藤泰三新会長談話

物流連八代目の会長に就任することになりました日本郵船の工藤泰三です。

前任の川合会長の後任として、これまで歴代会長のもと蓄積された物流連としてのノウハウ、経験を継承の上で、今後対処すべき課題等を見据えて、諸問題に取り組んでいきたいと考えております。以下所信を述べさせていただきます。

1) 物流連の歴代会長が取り組んでこられた基本的な課題として、「物流を等身大で見えていただく」ということがあります。これは、日々の国民生活を“縁の下の力持ち”として支えている物流機能の重要性を、より多くの方々に認識していただくことが大きな目的となります。これまでの各種活動の継続と、時代に即した新たな取組み等を通じ、“産業の血液”としての物流事業の価値を再認識していただき、物流業が魅力ある産業であることを、あらゆる機会を捉えて訴え続けていきたいと考えております。

2) 次に、社会インフラとしての物流業界の機能を強化していきたい、ということです。昨今、国内の物流業界は、トラック業界における運転手不足、内航フェリー業界における船員不足といった極めて根本的な問題を抱えております。こうした物流業界全体の共通課題を解決する為には、モーダルシフト等を前向きに捉え、輸送手段を超越した効率的な全体輸送体制を協力して考えていくような動きが必要となってきます。斯様なことを検討する「場」を物流連として提供していきたいと考えます。この延長として、国内産業の競争力強化を下支えするような国内物流システム構築も、日本の産業空洞化を食い止めるためには必要になってくると考えます。

3) 一方で、これまで取り組んできた物流事業者の海外展開を後押しする活動にもさらに注力していきたいと考えます。今や、多数の物流企業が海外、とりわけアジア各国での活動を拡大しており、海外における事業遂行の円滑化ということが、共通の課題となっております。これまで行ってきた調査活動、政策提言を、これからも継続していきたいと考えております。

4) さらに、物流分野の環境対策を促進するための活動も継続して実行したいと考えます。物流環境大賞、モーダルシフト優良事業者表彰等の制度を活用しつつ、多様な物流事業者の取組みを紹介していくことを継続する所存です。

上記のような課題への取組みは、一企業、一業態の単位では完結しないものであり、企業・業界と連携し、政府・省庁とも協力体制を取りながら、活動を進めていきたいと考えております。

物流連は業態の違う企業、団体の連合体であり、会員企業・団体や関係先の方々の協力があって初めて機能するものです。皆様の絶大なる協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。